

有限会社 中標津ファームサービス

■ 地域集団型のTMRセンターとして地域を支える



〈法人の概要〉

所在地: 〒086-1139 中標津町字豊岡 4434 番地 26

代表者: 代表取締役 長瀬重樹

構成員: 18 名(構成農家 18 戸)

役員: 10 名 常時雇用者: 8 名

設立: 平成 18 年 1 月 資本金: 900 万円

事業内容: 飼料作物/TMR 供給、農作業受託

牧草・デントコーン 21ha(H20 年)

経営面積: 21ha

農作業受託面積: グラスサイレージ 1,235ha、デントコーン 311ha

売上高: 8 億 8,560 万円(H20 年) 交付金も含む

電話: 0153-73-5001 FAX: 0153-73-5220

〈法人のあゆみ〉

- | | |
|---------|---|
| 平成 16 年 | 豊岡、協和地区の懇談会の中で、参加者から TMR センター設立検討について言及 |
| 17 年 | 根釧農業試験場が中心となり 2 地区の全員に参加意向の聞き取り調査を実施 |
| 18 年 | 地区のほとんどの酪農家が参加する有限会社中標津ファームサービスを設立し、8 月には運営開始 |
| 20 年 | 離農農家の農地を取得 |
| 21 年 | 離農した構成員の飛び地を取得(連担した農地は新規参入者が取得し構成員に加入) |
| 22 年 | バンカーサイロを増設、配送車を増台、増資の実施 |

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・中標津ファームサービスのある豊岡地区、協和地区には、センター設立前からそれぞれに牧草収穫機械利用組合があり、加えて地区をまたがり、スラリー散布機械利用組合を合わせて 3 集団があった。協和地区のほとんどの農家と、豊岡地区の半数の農家が、それぞれの機械利用組合で作業を行っていた。
- ・平成 16 年 5 月に開催した、両地区の酪農家と指導機関(根釧農業試験場、根室農業改良普及センター北根室支所、中標津町農協)の懇談会で、酪農家から「将来的にとうもろこしの価格が値上がりすることが予想され、これからは自分たちで、とうもろこしサイレージを生産しコスト低減を図らなければならない。根釧農業試験場が研究している早生種のとうもろこしの露地栽培技術を導入したいが、個別経営では技術導入できないので、TMR センター方式で検討したい。」という相談を受けたのが設立のきっかけであった。
- ・その後、TMRセンターの立ち上げに向けて、関係機関の取り組みが始まった。平成 17 年には根釧農業試験場が中心となって 2 地区の全戸に聞き取り調査を実施し、1 戸 1 戸参加意向の確認を行った。また、現代表の長瀬氏によるリーダーシップと、豊岡、協和の両地区の「農家のまとまり」によって、18 年 1 月に地域集団型の TMR センターである有限会社中標津ファームサービスを設立。同年 8 月に運営を開始した。
- ・平成 20 年には離農農家の農地を取得。21 年には、離農した構成員の離農跡地の飛び地を取得し、残りの連担した農地は、新規参入者が取得し、当該法人の構成員として加入。22 年には、バンカーサイロの増設や配送車を増台するなど、着実に事業を展開しており、地域集団型法人として地域がまとまって課題に取り組んでいる。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・運営 1～2 年目にサイレージが極端に余った。サイレージの在庫に対する税の扱いについては、初年度在庫に減価償却で相殺、割戻しによる相殺等の手法があったが、どの方法をとっても減価償却が前倒しになってしまい、手出し負担が出るなど、結果的に法人負担が発生した。
- ・3～4 年目は、とうもろこしの収穫量が気象変動等の要因により計画の半分となり、不足した粗飼料の確保が大変であった。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・生産資材の大量共同購入による購入コストの低減と、様々な種類の資材購入が可能となった。
- ・機械・設備の修理担当者の配置により、業者に依頼する場合に比べても、修理費が 1/3 に減少した。
- ・様々な人材を擁することで、多分野への対応可能。
- ・TMR の供給によって、酪農家の労働時間短縮や、乳量の増加、労働の限界を超えていた離農寸前の農家が営農を継続できるなどの効果が現れ、地域農業の底上げができた。
- ・構成員の法人への出役時間が想像よりも多かった。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・月 1 回の全体会議を実施し、構成員全員参加による意思決定を行っている。
- ・購入資材の選定や購入価格の決定などについては、コンサルタントによる飼料設計を基にコストを確認し実施している。
- ・経理の明確化を図ること。
- ・餌づくりについては、“品質追求”を目指すこと。

〈キーパーソン〉

・代表の長淵重樹 氏

地域や個別経営の様々な課題に対して提言・検討し、それに対し先頭に立って立ち向かっていく姿勢が明確にあったからこそ、地域の仲間や関係機関をここまで引っ張ってきた、リーダー的存在。

・根釧農業試験場の原仁 氏（現在は十勝農業試験場主任研究員）

設立段階に地区の 1 戸 1 戸を訪問して、TMR センターに対する意向確認と、参加希望農家の参加後の経営について検討を行うなど、センターの安定経営と地域農業の底上げに大きく貢献した。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・地域集団型法人
豊岡地区 12 名中 6 名や、協和地区 12 名中 12 名の地域のほとんどの酪農家が参加している法人組織。
- ・柔軟な参加条件
それぞれの農家の経営状況に合わせた、異なる参加形態を認め、TMR 購入はもちろんのこと、生産資材の共同購入のみの参加も認めている。
- ・経営スタイルに合わせた TMR の配送体制
それぞれの構成員の経営スタイルに合わせた TMR 給与を行っており、朝晩 2 回、必要な量をセンター配送車から直接、酪農家の給餌車へ運ばれる配送システムで、酪農家の労働軽減と TMR の品質保持を実現している。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・デントコーンの収穫が軌道に乗れば、余剰が出る見込みなので、それを外部販売して法人の収益を上げていきたい。
- ・TMR センターの近くに、協業法人を作る可能性があるので、連携して地域農業を発展させていきたい。
- ・農作業を受託している草地の更新を計画的に実施していきたい。

〈地域農業の底支え〉

- ・中標津ファームサービスは、構成員の TMR 供給や農作業受託だけではなく、余剰サイレージや、TMR の外部販売も行っており、こうしたことが購入農家の経営安定と経営改善にも繋がっている。

〈視察の受入〉

詳細については要相談。

連絡先：0153-73-5001（担当：代表取締役 長淵重樹）